

平成26年度学力向上マニフェスト

本年度の指導の重点 (昨年度の成果と課題を踏まえて)	取組の概要(実施内容)	評価指標 取組指標(教師側の指標) 成果指標(子ども側の指標)	予算執行	取組の成果	評価
外部人材(ティーチングアシスタント)によるきめ細かな指導の充実	学生による外部人材講師(ティーチングアシスタント)からの授業支援により、個に応じたきめ細かな指導の充実と学ぶ意欲の向上を図る。	○年間150回の学生によるティーチングアシスタントよりの支援を得きめ細かな指導を行う。 ○荒川区学力調査の全教科において荒川区の平均到達度、達成率を超える。 ○都の学力調査で全教科で都の平均を超える。			
「あらかわ寺子屋」による補充・発展学習の充実	夜間、放課後の補充・発展学習「あらかわ寺子屋」により、検定(漢字、英語、語彙力、数学等)を目指した学習に取り組み、学力向上の目標化と学習への意識と意欲の向上を図る。(外部講師(学生)による夜間の学習会の実施)	○年間36回の「あらかわ寺子屋」を実施する。 ○年間150回のティーチングアシスタントよりの支援を得る。 ○毎回2,3名ずつの教員の監督をおく。 ○年間9回の検定(漢字・文章読解力、数学、英語)の実施 ○年間総数450名の受験者、300名の合格者(級の取得者)を目指す。			
授業の工夫・改善 学校図書館活用モデル校	電子黒板やタブレット型PCを活用し、電子教科書により授業の可視化を進め、分かる授業、分かり易い授業への工夫・改善とする。また、学校図書館活用実践モデル校として年間総計60回以上の学校司書との活用・協働授業を行う。	○デジタル教科書コンテンツによる指導方法の工夫・改善 ○学校司書との活用・協働授業を各教科において年間総計60回以上実施する。 ○荒川区学力調査の全教科で区の平均達成率を超える。 ○都の学力調査で全教科で都の平均到達度を超える。			
小中一貫教育の推進	小学校と中学校との円滑な接続を図るため教育課程を整備し、共通な指導観、学力観に基づく指導により、確かな学力の定着・向上を図ることを目指し、一昨年度より各教科連携としての研究に取り組んでいる。	○年度末に研究誌を発行し年間のまとめとする。 ○研究授業を全教科で実施し1人1回以上実施する。 ○講師による指導を年間20回(3校合計)実施。 ○交流活動(環境書道、体験授業、部活動体験、合同挨拶運動、音楽交流等)を実施し小中連携教育の活性化を図る。			
理数教育の推進	東京都理数フロンティア理科としての取り組みを充実させる。そのために、「おもしろ探究授業」での外部講師による専門的な指導により理科等への興味・関心を高める。また、小中一貫教育実践校として理科・生活科の実践研究を深める。	○外部人材講師による1,2年での「おもしろ探究授業」を2回実施する。○理数フロンティア校、小中一貫教育研究実践校としての理科・生活科の連携を深める。 ○「おもしろ探究授業」を2回、12講座以上実施する。 ○都の学力調査で都の平均値を超える。 ○理科・生活科の研究授業を3校で年間3回実施する。			
キャリア教育の充実	生徒が自己の生き方を考え、共に学び共に高め合い自己実現を目指すため、「生き方」指導としてのキャリア教育を充実させる。(校内ハローワーク、勤労留学、職場訪問、体験入学、音楽交流、合同環境席書会等)	○校内ハローワーク、勤労留学、職場訪問、体験入学、合唱交流、環境席書会等の実施。 ○小中一貫教育実践校の取り組みを研究誌にまとめる。 ○荒川区学力調査意識調査で区全体より2ポイント上を目指す。 ○生徒による事後学習、発表会、弁論大会発表による。			
体力向上の推進	部活動や武道(剣道)の充実、マラソン大会等により体力向上と運動技能の向上を図り、心身を鍛え健全育成の充実を図るとともに、学力向上の基礎を培う。	○剣道講師による20回の専門的な指導と心身の鍛練、人間力の向上を目指す。 ○部活動指導員による指導を年間200回以上受ける。 ○部活動の入部率95%、各大会ベスト8を目指す。 ○文化祭(輝夕祭)、地域行事(汐まつり、文化祭)において発表し日頃の成果を伝える。			

【評価】 成果指標の達成度から評定(A・B・C)を決める
A:達成度90%以上 → 目標達成と見なし新たな目標を設定する B:達成度が9割未満5割以上 → 継続実施 C:達成度が5割未満 → 目標の見直し